

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)ココファン麻生田 新築工事	階数	地上5F	
建設地	熊本県熊本市北区麻生田1丁目847	構造	RC造	
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	60 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年	
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年9月5日	
敷地面積	999 m ²	作成者	西岡 美佐	
建築面積	586 m ²	確認日	2019年9月5日	
延床面積	2,137 m ²	確認者	上村	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

★★★★★

★★★★

★★★

★★

★

環境品質 Q

環境負荷 L

100

50

0

0

50

100

3.0

1.5

BEE=1.0

S

A

B⁺

B⁻

C

46

0.9

47

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆

☆☆☆

☆☆

☆

BEE = 0.9

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

91%

2 熊本県重点評価結果

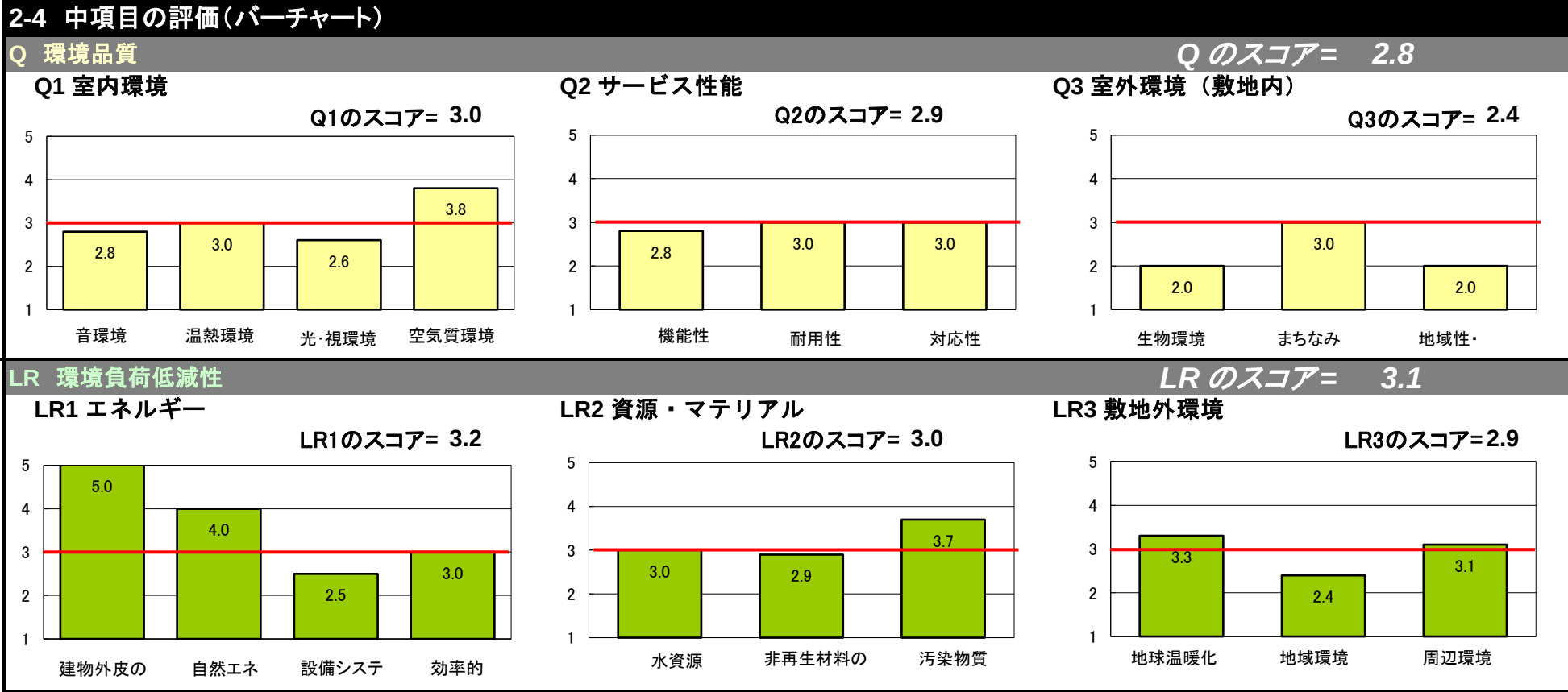
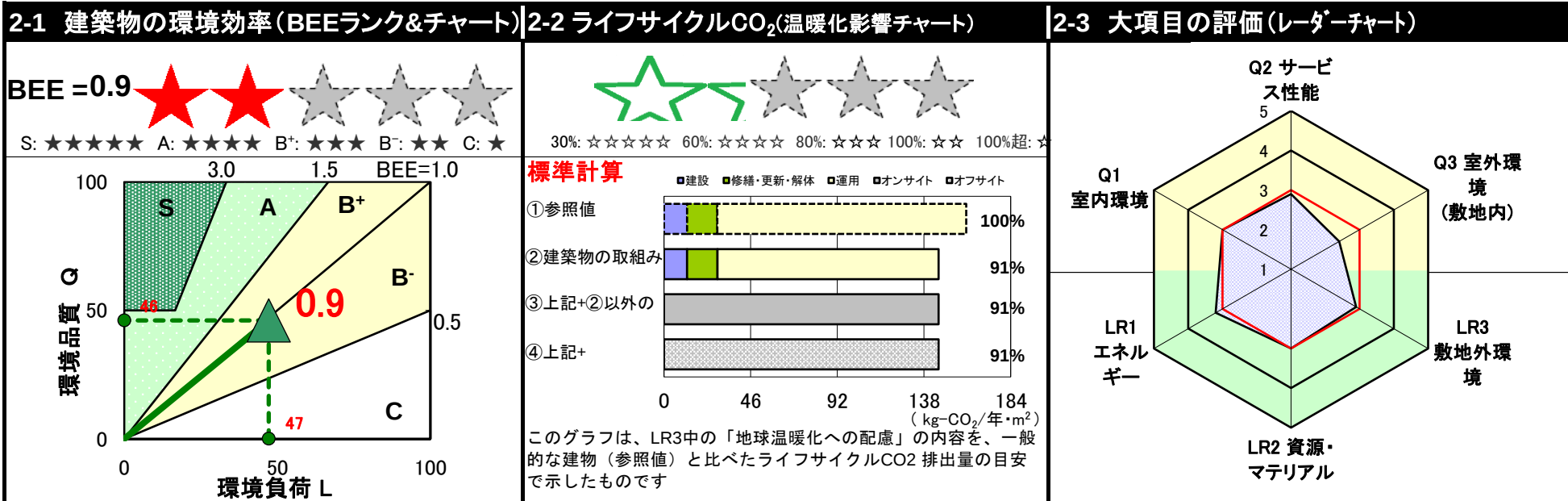
重点事項総合評価		評価点												
		74												
	評価点	熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	81.2	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	69.7													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ココファン麻生田 新築工事	階数		
建設地	熊本県熊本市北区麻生田1丁目847-	構造		
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	病院	評価の段階		
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日		
敷地面積	999 m ²	作成者		
建築面積	586 m ²	確認日	2019年9月5日	
延床面積	2,137 m ²	確認者	上村	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ココファン麻生田 新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境						0.40		-	3.0
1 音環境					2.8	0.15	2.6	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル		【共用部】医務室: 40dB 【住居】居室: 40dB		4.0	0.40	4.0	0.40		
1.2 遮音				2.6	0.40	2.2	0.40		
1	開口部遮音性能	遮音性能T-2を満たす		5.0	0.40	5.0	0.30		
2	界壁遮音性能			1.0	0.60	1.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	1.0	0.20		
1.3 吸音					1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境					3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50		
1	室温			3.0	0.38	3.0	0.57		
2	外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43		
3	ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境					2.4	0.25	3.1	1.00	2.6
3.1 昼光利用				3.2	0.30	3.6	0.30		
1	昼光率	【共用部】医務室: 1.14% 【住居】居室: 1.20%		2.0	0.60	4.0	0.60		
2	方位別開口			-	-	-	-		
3	昼光利用設備	トップライトの使用		5.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.30		
1	昼光制御			1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境					3.9	0.25	3.7	1.00	3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.3	0.38		
1	換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2	自然換気性能	0.079>0.06(1/15)		-	-	4.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2	喫煙の制御	喫煙室の設置		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	2.9
1 機能性					2.5	0.40	4.0	1.00	2.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1	広さ・収納性	【住居】居室面積: 15.54㎡/床 (Type_A) 15.39㎡/床 (Type_B) 12.54㎡/床 (Type_C)		-	-	5.0	1.00		
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-		
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40		
1	広さ感・景観	【住居】天井高: 2.5m		-	-	4.0	0.50		
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-		
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	①ビニルクロス貼②ビニル床シート③適度な水使用可④ホコリの溜まりにくい設計⑤風除室扉間: 4.0m⑥一室で異なる床材の使用なし⑩亜鉛メッキ、ステンレスを使用⑪極力段差のない動線		4.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2	外壁仕上り材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-		
3	主要内装仕上り材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の内、2種でBを使用、Eは未使用		5.0	0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-		
3	電気設備			3.0	0.20	-	-		
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		

		5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3	対応性・更新性				3.1	0.30	2.6	1.00	3.0
	3.1	空間のゆとり			3.4	0.30	2.2	0.50	
		1	階高のゆとり		3.0	0.60	1.0	0.60	
		2	空間の形状・自由さ	【共用】比率:0.22 【住居】比率:0.21(Type_A) 0.40(Type_C)	4.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2	荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3	設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
		1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
		2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
		3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
		4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
		5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
		6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1	エネルギー				-	0.40	-	-	3.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m :0.79		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		トップライトの使用		4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化				2.5	0.50	-	-	2.5
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
		4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
		4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価			-	-	-	-	
		4.1	モニタリング		-	-	-	-	
		4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1	節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				2.9	0.60	-	-	2.9
	2.1	材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法		5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
		1	消火剤		-	-	-	-	
		2	発泡剤(断熱材等)	硬質ウレタンフォーム使用	5.0	0.50	-	-	
		3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:91%		3.3	0.33	-	-	3.3
2	地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
	2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
		2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
		1	騒音		3.0	1.00	-	-	
		2	振動		-	-	-	-	
		3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
		3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインを満たす	4.0	0.70	-	-	
		2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

居室を広く計画し、採光を取り入れるために開口部を大きくとり、居住性を高める計画とした。 限りある資源に配慮し、LED照明を導入した。

Q1 室内環境

使用材料はすべて「F☆☆☆☆」または、「規制対象外」とする。天井裏の措置も同様とする。 開口部を広くとり、居住空間の採光に配慮した。

Q2 サービス性能

居室天井高さは、2.5mを確保して、居住環境に配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

限りある資源に配慮し、LED照明を導入した。

LR2 資源・マテリアル

断熱材は「ノンフロン」とした。

LR3 敷地外環境

広告照明を設置せず、屋内に漏れる光にも配慮した計画とする。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)ココファン麻生田 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81.2	0.40	32.48
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	5.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69.7	0.20	13.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数